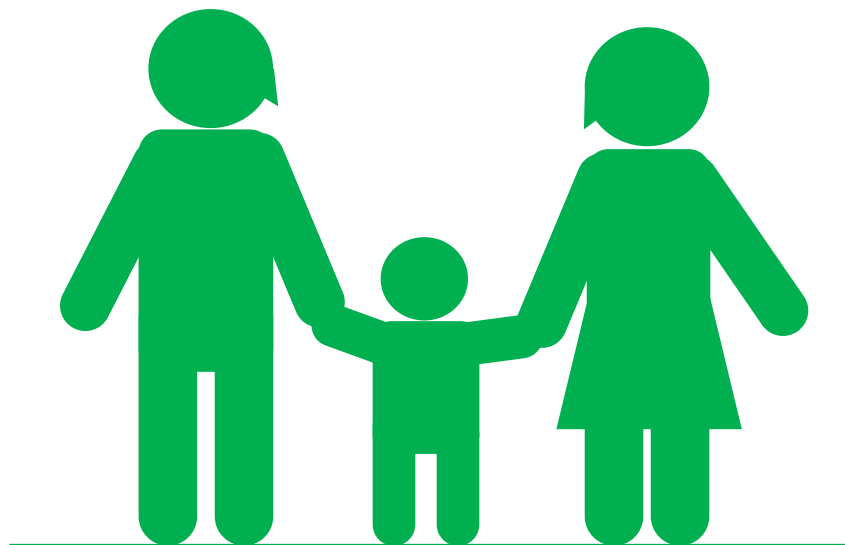


思いがけない事故を防ぐ

～子ども編～



大垣消防組合消防本部

目 次

- 子どもの救急搬送について・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 「窒息・誤飲」事故・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - もしものときの応急手当
 - のどに物が詰まった！ときは・・・・・・・・ 4
 - 意識がない！呼吸がない！ときは・・・・・・・・ 5
- 「やけど」・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - もしものときの応急手当
 - やけどした！ときは・・・・・・・・ 8
- 「転落」事故・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

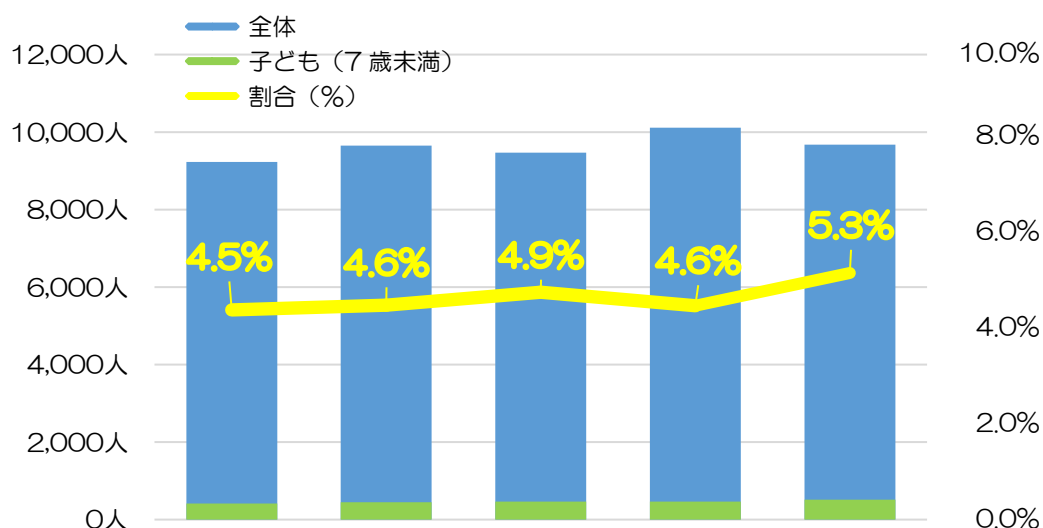
子どもの救急搬送について

大垣消防組合では、平成30年に初めて救急搬送人員が1万人を超えました。

年齢別の割合を見ると、**約5%**が7歳未満の子どもです。

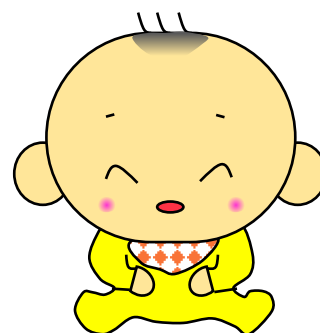
子どもに特徴のある事故やその予防策を知ることによって、未然に事故を防ぎましょう。

子どもの救急搬送人員



	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年 (平成31年)
全体 (人)	9,227	9,651	9,470	10,111	9,674
子ども (人)	445	463	465	513	482
割合 (%)	4.5	4.6	4.9	4.6	5.3

少しの知識で事故を
防ぐことができます!



事故防止の対策

①窒息や誤飲が始まる時期を知っておきましょう。

早い子では、**5か月**を過ぎると、口の中に物を入れるようになります。**トイレットペーパーの芯（39mm）**を通る物は、窒息、誤飲の危険があります。

②家の中は、子どもの目の高さで危険がないか、チェックしましょう。

子どもの手の届くところに、窒息、誤飲の危険があるものを置かないように、整理整頓をこころがけましょう。

③年齢に応じた大きさや形状にして食べさせる、びっくりさせない。

成長段階に応じ、食べ物は適切な大きさに切る、つぶすなどして食べさせ、食事中に大きな声で呼ぶなど子どもをびっくりさせるようなことはやめましょう。

また、歩きながらや寝ながら食べさせることもやめましょう。



もしものときの応急手当

のどに物が詰まった！ときは

乳 児

背部叩打法（はいぶこうだほう）

- ①うつぶせにし、その下側に腕を通す。
- ②指で乳児の下あごを支えて軽く突き出し、上半身がやや低くなるような姿勢にする。
- ③手の付け根で両側の肩甲骨の間を4～5回迅速にたたく。



胸部突き上げ法

背部叩打法で除去できなければ、あおむけにし、胸骨圧迫の要領（5ページ参照）で、4～5回圧迫する。



小 児

背部叩打法

- ①立っているか座っている場合は、後方から身体を支えて、うつむかせます。倒れている場合は、傷病者を手前に引き起こして横向きに寝かせます。
- ②もう片方の手のひらの付け根で、傷病者の肩甲骨と肩甲骨の間を強く4～5回迅速に叩く。
- ③回数にとらわれず、異物が取れるか、反応がなくなるまで続ける。

呼びかけに反応がない場合は、ただちに心肺蘇生法（次ページ）を!!

もしものときの応急手当

意識がない！ 呼吸がない！ ときは

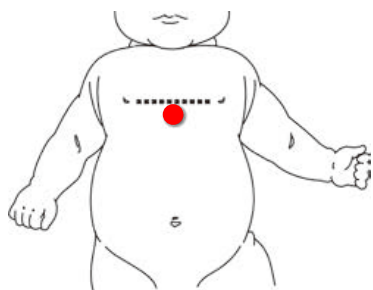
- ①安全を確認する。
- ②反応を確認し、助けを呼ぶ。
- ③119番通報とAEDの手配
- ④心肺蘇生法の実施

【心肺蘇生法】

乳 児

- ①両乳頭を結ぶ線の少し足側を指2本で圧迫する。
- ②胸の厚さの約1/3沈むまでしっかり圧迫する。
- ③1分間に100回から120回のテンポで圧迫する。
- ④人工呼吸は、口と鼻を同時に覆って、胸の上がりが見える程度の量を約1秒かけて2回吹き込む。
- ⑤胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を組み合わせ、絶え間なく続ける。

①



②



③



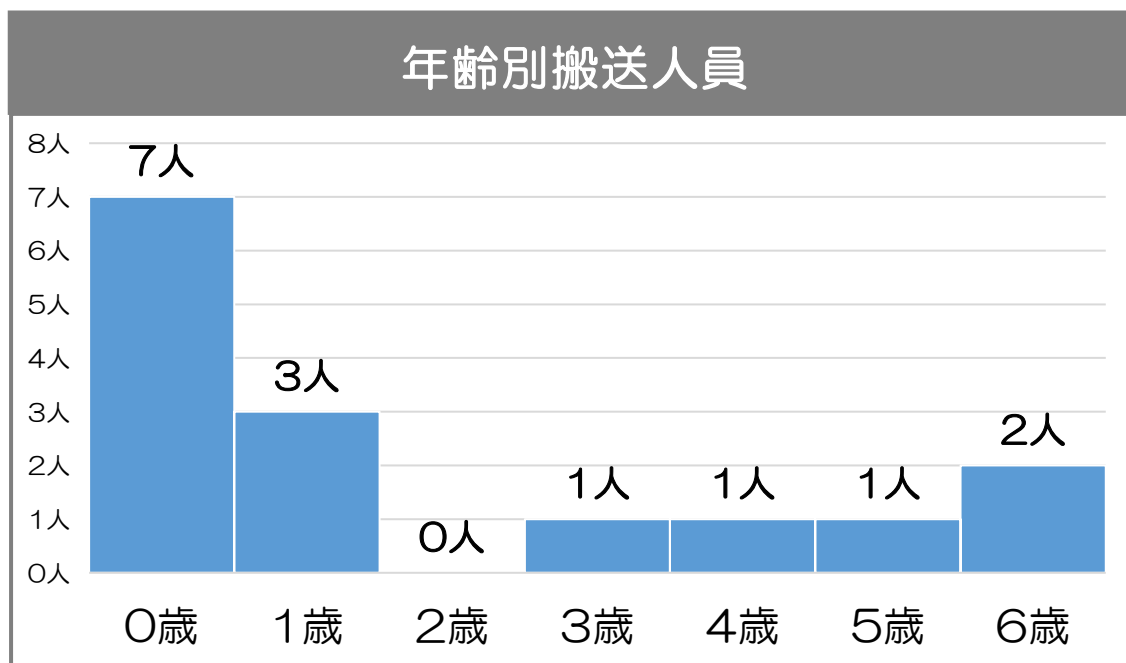
小 児

- ①胸の真ん中を両手又は、体格によっては片手で圧迫する。
- ②胸の厚さの約1/3沈むまでしっかり圧迫する。
- ③1分間に100回から120回のテンポで圧迫する。
- ④人工呼吸は、胸の上がりが見える程度の量を約1秒かけて2回吹き込む。
- ⑤胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を組み合わせ、絶え間なく続ける。



「やけど」

平成27年から令和元年の5年間で、「やけど」で搬送された子どもは**15人**です。



主な受傷時の状況

- 片手鍋を持ったところ、ひっくり返り、熱いみそ汁がかかった。
- 電気ポットのコードに引っ掛かり、電気ポットが倒れ熱湯がかかった。
- 膝の上に子どもを乗せて、カップ麺を食べていたところ、容器が倒れ、スープが体にかかった。
- 沸かしたお茶を、水筒に入れようとしたところ、水筒が倒れ、お茶がかかった。

事故防止の対策

- やけどの恐れのあるものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。

※テーブルの上に置いてある熱いもの（みそ汁・スープ類、お茶、コーヒーなど）をひっくり返してしまうことが多いので、特に注意が必要です。

- 子どもを抱いたままの調理や、熱いものの飲食をしないようにしましょう。

- ファンヒーターやストーブなどには、ガードを取り付けて、高温部分に触れさせないようにしましょう。

- 電気ポット等は、チャイルドロック等がついている安全な製品を使用しましょう。



もしものときの応急手当

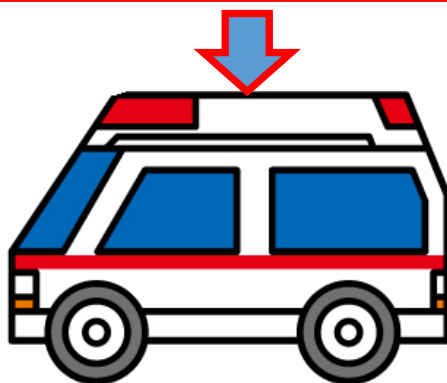
やけどした!ときは

水で冷やす

- 水道水などの清潔な水で、冷やす。
- 衣類を着ている場合は、脱がさずに衣類ごと冷やす。
- 水疱（水ぶくれ）は、破らない。



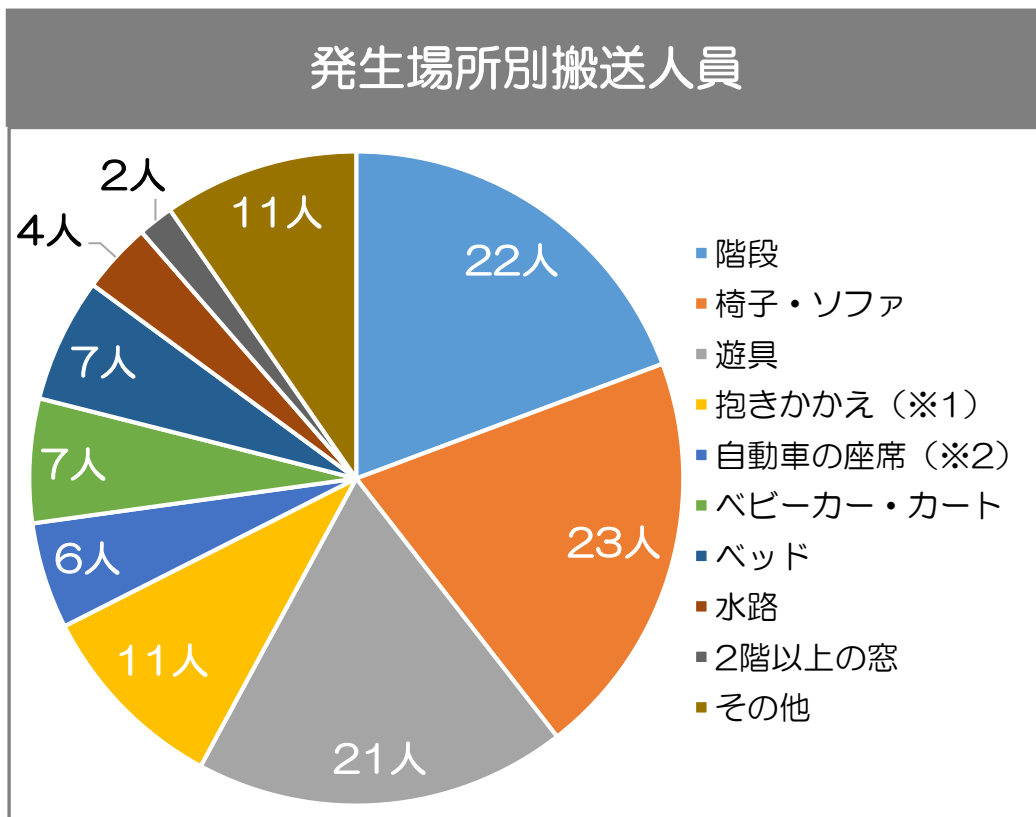
- 広範囲のやけど
（子どもの手のひら10個分より広い）
- 皮膚が黒く焦げている
- 皮膚が白くなっている



すぐに救急車を要請（119番通報）
してください!!

「転落」事故

平成27年から令和元年の5年間で、「転落」事故で搬送された子どもは**114人**です。



※1 抱きかかえ：親等に抱かれた状態で、なんらかの原因で転落したもの

※2 自動車の座席：乗車していた状態で、停車中になんらかの原因で車外に転落したもの

事故防止の対策

①ベランダ

踏み台になるようなもの（椅子など）を置かないようにしましょう。

※エアコンの室外機を置く場所にも注意しましょう。

②窓、出窓

窓の近くに踏み台になるようなもの（ベッド、ソファなど）を置かないようにしましょう。

③階段

転落防止用の柵を設置し、ロックを掛けましょう。

④ベビーカー

段差などでバランスを崩すことがあるので、必ずベルトをしましょう。

⑤抱っこひも使用时

物を拾うなど前屈みになるときは、必ず子どもを支えましょう。

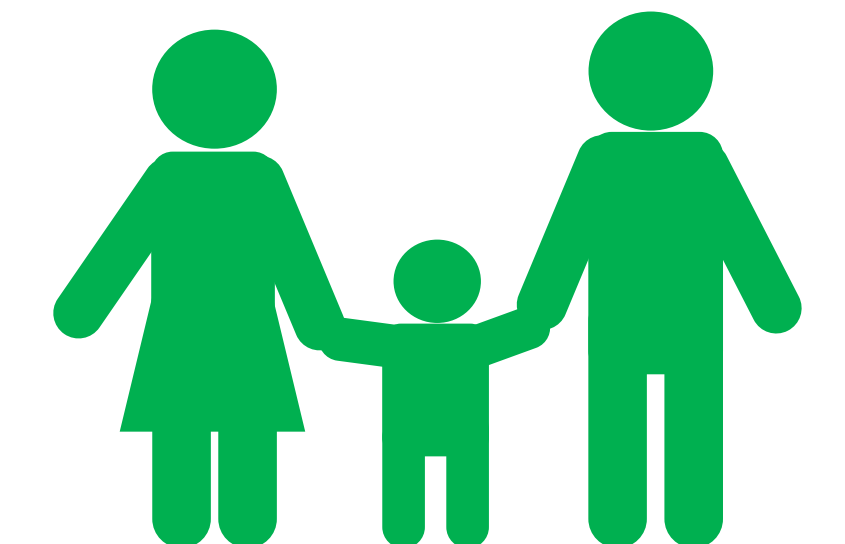


⑥自動車の座席

チャイルドシートのベルトが確実に締まっているかを確認しましょう。

⑦エスカレーター

できるだけ、子どもを一人で乗せないように、抱っこや手をつないで、乗るようにしましょう。



イラスト出典 ・「救急蘇生法の指針 2015 市民用」
日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修 厚生労働省
・「イラスト集」
消費者庁ホームページ

令和 2 年 3 月

作成：大垣消防組合消防本部 救急課
大垣市外野 3 丁目 20 番地 2
電話 0584-87-1513（直通）

大垣消防組合ホームページ
<http://www.ogaki-syoubou.or.jp>